傳燈問答頌 八

特別
へ13
4274
8

713
4274
8
91-2339

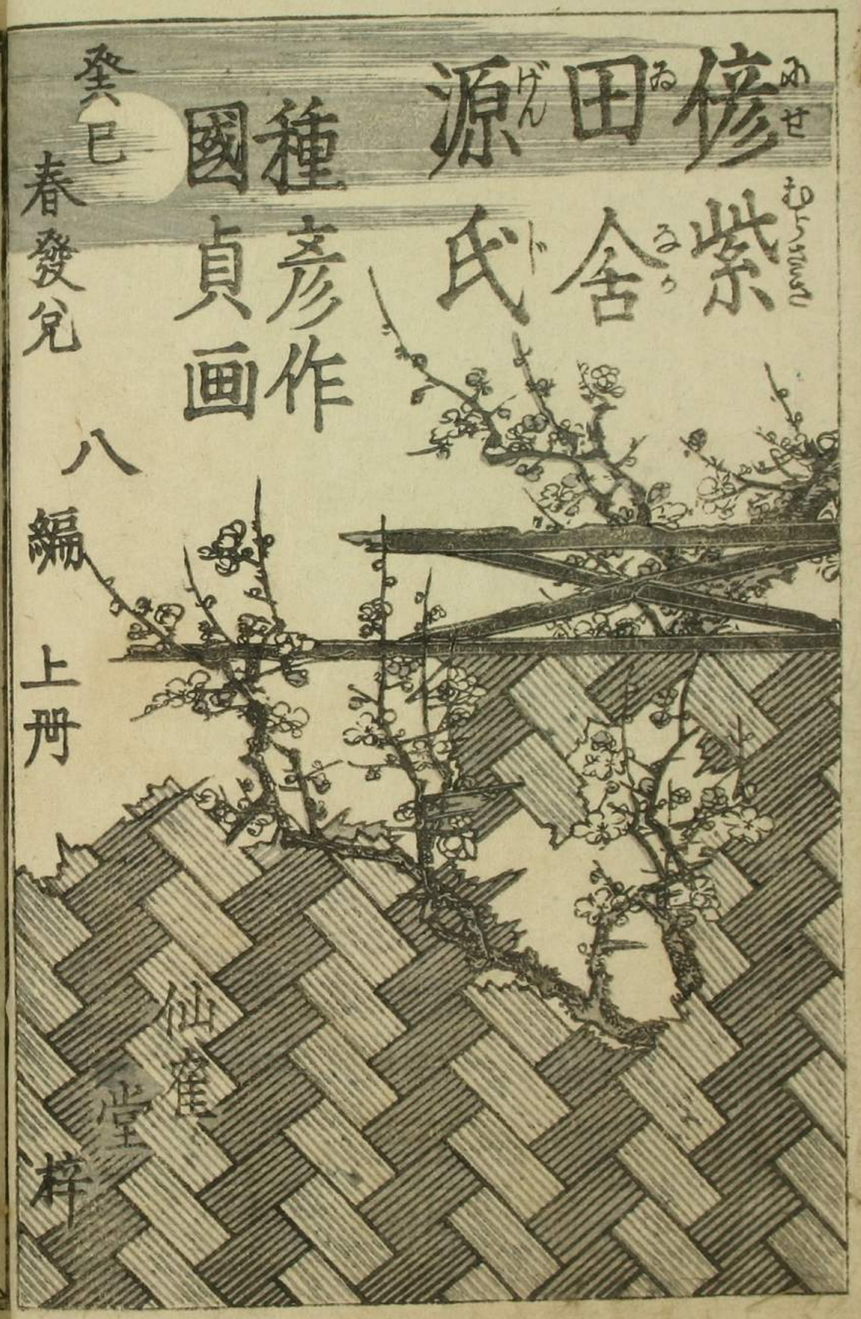
修紫田舍源氏

種彦作
國貞画

癸巳春發兌　八編

上冊

仙鶴堂梓



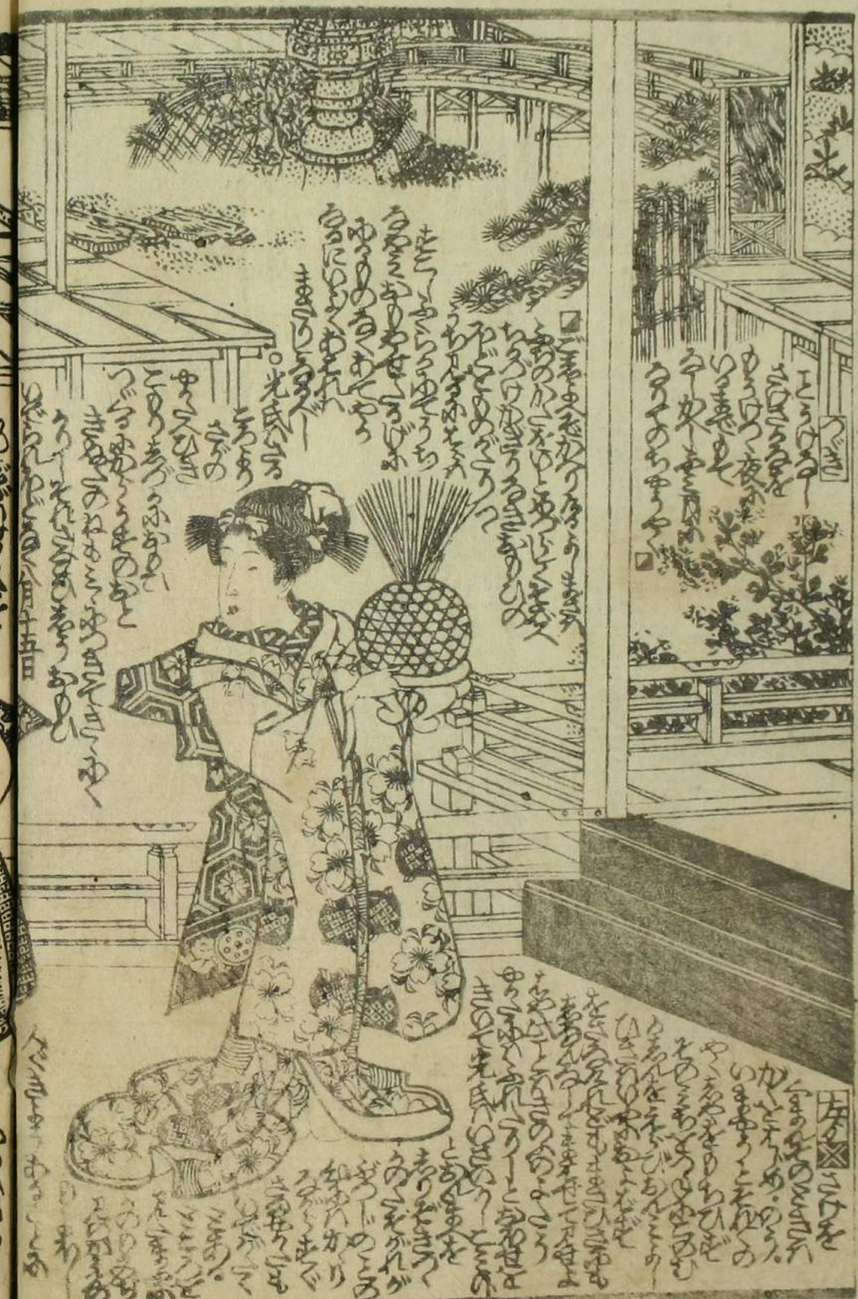
田舍源氏第八編

紫式部い觀音の化身ありとそ。されば源氏物語ハ出家女ハ
楊貴妃の郭のまろやかなるあれば宝珠の光の輝ゆ。弓の濃ある。劔の
ちるごとく。其の逸ハ異もあれどもいづれも一向信ずべし。口ハ強く筆ハ
固るもの狡。弱ハ田舍ハ田縁ある。馬頭と一向信ずべし。口ハ強く筆ハ
走らぬ。机にかゝり面杖ぬき。彼如意輪の姿ハ。どのやうハ考へても。
念彼觀音の力ハ。下ゑ上るの近言ハ。ろく石帳ハ綿とありながら
べき腸を抱ざる者ハ田舍木綿が精一杯ハ第と紅まの袋ハ未つむ
花の横堅ひとゝハ。ろく格子嶋。笑六編より十編九編。四五反
修ぎの長ハ。ゑハ織入ゑりハ石山の爺の潜ハや掛て祈らん

天保四年癸巳發春　柳亭種彦

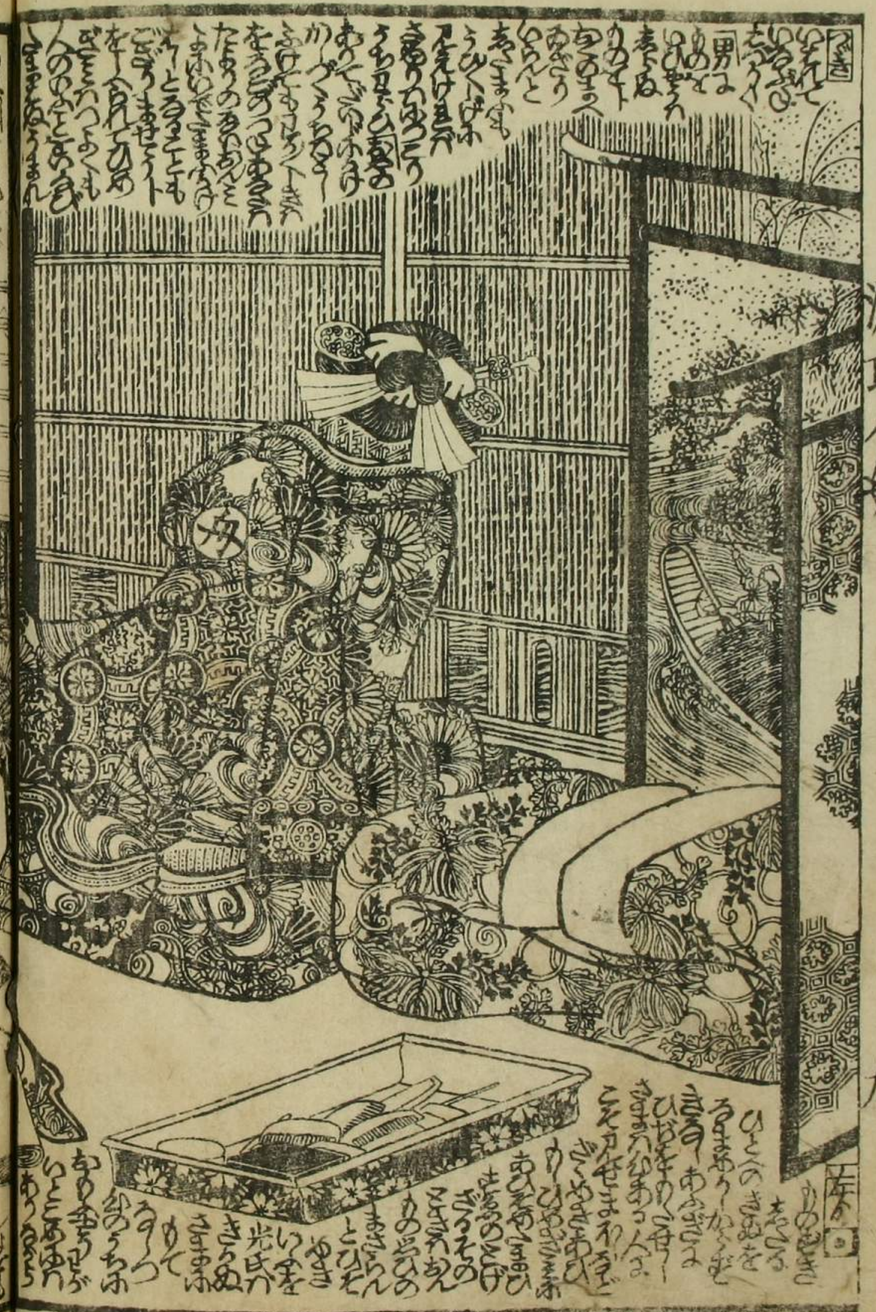
源氏八編
いつもさび
君が老ぐまに
まけぬらん
光氏十八歳七編と同年
ものふ
いとこ
義勝の
嫡女
稲舟姫
稲舟の侍女
花里

四郎正尚
千鶴の方
源氏八編



紅
紫

光



國貞画 種彦作

田舎源氏

勝美延子の見立絵

来甲午春新板繪冊子合巻 巻色の表紙 美人絵シキリ

波紋柳色糸 柳亭種彦作 歌川國貞画

糸柳の長かとぞ猿子柳の緑かぞ十二冊あて全くをそる物がくるめく四冊で三軒の同屋より賣出そ美麗物語の新趣別あおりきはーもつけきと彩紙の色どりは注文ちゃのもの新奇めユ感ありて彫りと摺りをあらそひあるそのあるあんなゆるる絵ざうしよあんこれがよーい仰そ拙くとも情美をあらはるべー

作者敬白

考訂大和詞

再板出来 柳亭校 弄花翁撰

江の島鎌倉大山往来双六 前北齋為一画 柳亭種彦撰

為一翁の地よ遊行のときまんけの表紙をあをびのこふあらぎこれをひらきて見あくべそ双六あそ旦絵ゑ表ともあるべきあ

江戸通油町地本書林 仙鶴堂 小林喜右衛門印行

八編下

原氏

四合

信貞堂

梓

田舎源氏

八編下冊

種彦作
國貞画

通油町
鶴屋
開板

源氏人絵
東文人編

國貞画 種彦作

天保巳春新版書林地本問屋仙窟堂

傾城水滸傳第十二編 下 四冊 歌川国安画
百人一首童講譯 初編四冊 二編四冊 歌川国安画
年中行事 五郎供稚講譯 山東京山作 前八冊 後八冊 歌川国安画
三国志畫傳第五編 全八冊 二代目十返舎一九作 歌川国安画
八蕚藤玉傳記 全六冊 歌川国貞画
國字水滸傳第十三編 全四冊 柳亭種彦校 歌川国芳画
出世奴小万の傳 全四冊 柳亭種彦作 歌川国直画
花街雀竹夜遊 全四冊 笠亭仙果作 歌川国貞画
鏡獅子 鬘 柳亭種彦校 歌川国芳画
仙女香四入袋 美玄香四入袋 長袋製
成駒香 鶴聲丹 中村氏製
書物錦繪 江戸通油町 問屋鶴屋喜右衛門
團扇紙 問屋鶴屋喜右衛門
鬘帯メ如月 全六冊 柳亭種彦校 歌川国安画
彦紫田舎源氏 十九 柳亭種彦作 歌川国貞画
星下梅花咲 全四冊 柳亭種彦作 歌川国貞画
春遊霞彩色 全四冊 柳亭種彦作 歌川国貞画